

科目名称：	表計算特演	
担当者名：	井戸 健敬	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>1年次の「表計算演習Ⅰ・Ⅱ」では、表計算ソフトMicrosoftExcelの基本的な利用方法について学びました。しかし、実際のビジネス現場では、より多量で、場合によっては不完全なデータを用いて問題解決を図る能力が求められます。本演習は、実務で遭遇することが予想される、より実践的な利用技術の修得を目的とします。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>日商PC検定試験（データ活用）2級合格のレベルを目標とします。授業は演習形式で進めます。授業内で作成したファイルは個人フォルダに保存し、GoogleClassroomから提出します。それを教員がチェックする形で各回の授業内容が達成できたかを確認します。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	70		20	10	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
関数	様々な関数を、状況に応じて適切に使いこなすことができる。	様々な関数を、状況に応じて使いこなすことができる。	様々な関数を利用することができる。	関数を利用できない。
集計機能	様々な集計機能を、状況に応じて適切に使いこなせる。	様々な集計機能を、状況に応じて使いこなせる。	様々な集計機能を利用することができる。	集計機能を利用できない。
グラフ	状況に応じて適切なグラフの種類を選択し、最適なグラフを作成できる。	状況に応じてグラフの種類を選択し、グラフを作成できる。	指示に従って、グラフを作成できる。	グラフを作成できない。
処理速度	与えられた課題を素早く的確に理解し、短時間で正確にデータを処理できる。	与えられた課題を的確に理解し、正確にデータを処理できる。	与えられた課題を理解し、データを処理できる。	課題の解釈に時間がかかり、正確にデータを処理できない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 日商PC検定について 計算と関数の副手	「表計算演習」の内容を復習しておく	30分
第2回 ピボットテーブルと関数1	数式入力や関数などExcelの操作について復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第3回 ピボットテーブルと関数2	ピボットテーブルについて復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第4回 演習1	ピボットテーブルについて復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第5回 演習2	演習1の内容を復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第6回 演習3	演習2の内容を復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第7回 グラフ1	演習3の内容を復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第8回 グラフ2	グラフについて復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第9回 演習4	グラフについて復習し、演習課題をサーバに保存しておく	30分
第10回 演習5	演習4の内容を復習し、演習課題をサーバに保存しておく	60分
第11回 演習6	演習5の内容を復習し、演習課題をサーバに保存しておく	60分
第12回 日商PC検定対策1 (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	演習6の内容を復習し、演習課題をサーバに保存しておく	60分
第13回 日商PC検定対策2 (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	検定受験に向けて、合格点に達するよう繰り返し練習しておく	60分
第14回 日商PC検定対策3 (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	制限時間内に合格点に達するよう問題集を繰り返し練習しておく	60分
第15回 日商PC検定対策4 (授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	これまでの内容をすべて復習しておく	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としてはテキストの練習問題と演習プリントの問題の解答をファイルサーバに保存することになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、70%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

演習課題20%、授業への貢献・積極的関与10%
※定期試験は日商PC検定

課題に対するフィードバック

提出課題は、チェックポイントを記入の上、返却する。

教科書・参考書

教科書：「よくわかるマスター 日商PC検定試験 データ活用2級 公式テキスト&問題集」FOM出版
教科書に沿って授業を進め、演習の回はプリントを配付する。検定対策の回は教科書の模擬問題を行う。
参考書：「表計算演習Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書等